

# 蕪 工 ニュース

県立蕪崎工業高等学校 企画・広報部  
第27号 2007.02.08

前期入試始まる・課題研究発表会  
ロボットづくり教室開催  
市川君アメリカ遠征・よみうり写真大賞  
山岳部がスキーに挑戦

## 競争倍率1.89倍 前期日程入試始まる

1月24日、25日の二日間、前期募集入学者選抜試験を実施しました。2日間とも好天に恵まれ、早朝まで寒い中を受験生が受付の開始を待っていました。今年度は校長推薦制から自己推薦制に代わった初の選抜試験でしたが、希望者数が昨年度を大きく上回り136名となり、過去最高の数となりました。定員72名に対して1.89倍と高倍率のなかで、中学生たちは緊張して試験に臨みました。



1日目は、作文検査と個性表現検査、2日目は面接検査（個人面接・集団面接）が実施されました。個性表現検査では、スポーツ分野及び文化的発表分野において様々な工夫をこらした独創性あふれる発表・表現をし、個性をPRしてくれました。2日目は面接検査でしたが、緊張感あふれる重い空気の中で、しっかり質問に答えていました。試験が終わり会場を出るときの顔と、カバンに付けた「合格守」が印象的でした。

## 課題研究発表会が行われる

1月19日（金）、各科一斉に課題研究科内発表会が行われました。課題研究は、工業高校の専門についての学習の総決算で、今までの知識を総動員して1年間1つのテーマ（製作や調査・研究など）に取り組むものです。発表会では、来年この科目を学習する同じ科の2年生を対象に、1年間取り組んできたことをまとめて発表しました。



先輩から後輩へと、こうして工業高校のよい伝統が引き継がれていきます。

## 出張ロボット工作教室開催



1月27日（土）須玉町ふれあい館で「親子ものづくり教室を開催しました。当日は、ボランティアで電子機械科の3年生5名と職員3名が指導にあたりました。児童27名と保護者16名が早朝より集



まってくれました。予定終了時間をはるかにオーバーしての皆熱心な作業となりました。写真にあるようなロボットが完成した時には親子で喜んでいました。



レスリング部市川君アメリカ遠征



昨年6月、本校を会場として行われた、米国ミシガン州選抜チームとの親善試合で、2戦2敗という悔しい思いをした市川君。今回、米国遠征の日本代表メンバーに選ばれ、ひそかにその時のリベンジを期して参加しました。遠征はカリフォルニア州とオレゴン州の各地方を転戦するハードスケジュールでした。また、金銭的支援しながら地元選手を応援するほどの地域柄で熱心な観客が多く応援に詰めかける文字通りアウェイの雰囲気の中での試合が続きました。「プレッシャーも感じましたが、自分たちのほうが技の多彩さで上回っていると信じて戦い、3勝1敗という結果を上げることができました。僕は卒業後に就職しますので、休日などに学校を訪れ後輩の練習相手をするときなどに、この海外遠征で得た貴重な体験を、後輩に体で伝えていきたい。」と話してくれました。

**山岳部 スキー関東大会出場** 1月22日～24日群馬県利根郡で関東高校スキー大会が開催された。本校山岳部は今年度初めて本格的にスキーに取り組み、県総体に参加し、上記大会への出場権を得ることができました。アルペンに2年小林浩之君、ノルディックに2年窪沢翔太君、1年中込祥君・能勢悠聖君がエントリーしました。「結果は、関東のレベルの壁を感じたが、自分を追い込み全力を尽くしてきた。これからも今ある環境に感謝し、精一杯努力していくつもりである。」と

写真部読売写真大賞入賞

昨年11月に出品した読売新聞主催の写真コンテスト(読売写真大賞)の学生の部に入選に見事1年尾前君が入賞しました。出品した作品は昨年5月の高校総体でハンドボールのシュートシーンを撮影した1枚。「ピントがなかなか合わなくて、撮影に苦労した。」入選は思っても見なかったので大変嬉しいと言っていました。写真を本格的に初めてまだ1年。これからの活躍が期待されます。

今年も積極的に葦工ニュースを発行していきます。よろしく願います。

広報担当者

昨年6月、本校を会場として行われた、米国ミシガン州選抜チームとの親善試合で、2戦2敗という悔しい思いをした市川君。今回、米国遠征の日本代表メンバーに選ばれ、ひそかにその時のリベンジを期して参加しました。遠征はカリフォルニア州とオレゴン州の各地方を転戦するハードスケジュールでした。また、金銭的支援しながら地元選手を応援するほどの地域柄で熱心な観客が多く応援に詰めかける文字通りアウェイの雰囲気の中での試合が続きました。「プレッシャーも感じましたが、自分たちのほうが技の多彩さで上回っていると信じて戦い、3勝1敗という結果を上げることができました。僕は卒業後に就職しますので、休日などに学校を訪れ後輩の練習相手をするときなどに、この海外遠征で得た貴重な体験を、後輩に体で伝えていきたい。」と話してくれました。

スクラブル

葦崎工高山岳部の2人



インターハイでの健闘を誓う窪沢翔太さん(左)と浅川賢太さん(右) 葦崎工高

葦崎工高山岳部2年の窪沢翔太さんと浅川賢太さんがスキーの県高校総体で上位に入り、2月に富山県で開催されるインターハイへ出場することになった。2人ともこれまで競技スキーの経験はなく、県総体は初出場だった。全国切符獲得に「とにかく驚いた。インターハイでは精いっぱい頑張りたい」と話している。

窪沢さんは距離15%フリーで3位、浅川さんは同10%クラシカルで5位に入った。2人とも「ペース配分も何もなく、がむしゃらに滑っただけ」と振り返る。

スキー初出場で全国総体練習の成果信じ「頑張る」

同校の山岳部員は2年生3人、1年生2人で、週に6日、走り込みやフリースクランジで基礎体力づくりをしている。今回の参戦は、冬季は危険性が高く登山ができないことから、山本健一監督が「練習の一環としてノルディックに出場しよう」と提案したのがきっかけだった。

2人以外の部員も関東高校大会への出場を決めていて、山本監督は「普段の練習の成果が出たと思う。しかしインターハイに出場できるとは思わなかった」と予想外の結果に喜んでいる。

2人は全国大会へ向けて「県総体のタイムを上回りたい(窪沢さん)」「とにかく全力を出し切る(浅川さん)」と目標を掲げている。

感想を述べていた。

資料提供：読売新聞社&山梨日日新聞社

31日(水曜日) 青雲 雲 赤斥 馬門

【第二種読者招待記】

**ピント、構図に苦労**

今年度部員、高校生部員「読売写真大賞」尾前君が、北村市長野町出身、現年17歳、葦崎工高2年生

「高校で学ぶまでは、カメラに触れることばかりはなかった。入賞したのは、写真の面白さを、自分自身で体験した。最初は、写真の面白さを、自分自身で体験した。最初は、写真の面白さを、自分自身で体験した。」

尾前君の作品は、昨年5月の高校総体でハンドボールのシュートシーンを撮影した1枚。「ピントがなかなか合わなくて、撮影に苦労した。」入選は思っても見なかったので大変嬉しいと言っていました。



【評】ハンドボールのスクイアプレーでしょうか。激しい攻防を視事に繰りかえして、もう少し下まであれば躍動感ももっと出たと思います。左の空間も効いていますが、手が邪魔でした。この手が無ければもっとすっきりした写真になりました。(写真部デスク・高梨義之)

尾前さん(葦崎工高) 小高さん(甲府西高) 入選

URL <http://www.kai.ed.jp/nirasakith/>  
 e-mail [info@nirasakith.kai.ed.jp](mailto:info@nirasakith.kai.ed.jp)

